

加藤健人・田中雄輝

研究、スポーツ、趣味、特技...
学内外のさまざまな場面で活躍する岡大生たち。
そんなきらりと光る学生を、
同じ学生の目線から紹介する。

KATO KENTO / TANAKA YUKI

法学部（夜間主コース）



今春、岡山大学法学部（夜間主コース）に2人のプロサッカー選手が入学した。サッカーJ2のファジアーノ岡山に所属するMF加藤健人、DF田中雄輝両選手。ともに岡山学芸館高校出身で、昨年12月、社会人入試で合格した。高校時代から同クラブのユースチームに所属しており、今季から昇格。プロ契約を結び、セカンドチームの「ネクスファジ」で活動している。

「大学生」と「プロサッカー選手」。二足のわらじを履きながら、2人は忙しい日々を送っている。



けがにも負けず努力
加藤選手

加藤選手は岡山市出身。物心ついた時にはサッカー遊びに夢中になっていた。ファジアーノの試合もよく見に行っており、「選手たちに憧れていた」と話す。

ユースチームに入ってから、けがに悩まされることが多かった。高校3年の春、練習中に左腕を骨折し、手術。試合に出られず、もどかしい期間もあったが、「たくさんの方が支えてくれたおかげで、頑張るこ



勉強を両立 田中選手

大学受験を決意したのは「夜の時間を有意義に送りたいから」と。入学して一番よかったのは、今まで関わることがなかった年齢や職種の人々と出会えたことだという。「大学生活は、自分の考えや知識の幅を広げるチャンス。学んだことをサッカーに活かしたい」と期待に胸を膨らませる。

3年間こなしてきた。
大学生になってからも、移動などの空き時間を見つけては本を読んでいる。勉強では、「将来、役立ちそうだから」との理由で、特に英語に力を入れている。

尊敬する選手は、同じ左サイドバックをポジションとする日本代表の長友佑都選手だ。「90分間、走り続けられる選手。最後まであきらめないサッカーを貫いている」と田中選手。少しでも、長友選手に近づけるようにと努力を重ねている。

2人で描く
同じ夢

高校から現在まで同じ環境に身を置いてきた2人。互いのことを「(田中選手は)まじめで、やると決めたらとことん打ち込む。自分も見習いたい」(加藤選手)、「チームをまとめるのがうまく、人を引っ張る力がある」(田中選手)と信頼し合っている。

今後の目標はともに「日本フットボールリーグ(JFL)後期でのチーム優勝」と「トップチームに上がること」。これからも、同じ夢を描きながら、ピッチを駆けめぐる。

ファジアーノ岡山ネクスト

(呼称：ネクスファジ)



J2で活躍する「ファジアーノ岡山」のセカンドチーム。若手選手育成のため、2009年に結成された。2013年に、日本フットボールリーグ(JFL)へ昇格。Jリーグで活躍できる選手をトップチームに送り込むことを目指している。



▲授業風景

広島県出身の田中選手は、小さいころからプロサッカー選手になることを目標にしていた。ユースへ入ることは「プロへの大きな一歩」と考え、高校から岡山へ。「サッカーと学業の両立を心掛けてきた」と話す堅実派だ。

放課後はユースチームで練習。帰宅後は、夜中の1時まで勉強するというハードなスケジュールを



インタビュー
岡大学生取材班
文学部特別聴講学生
具 延修 (ク・ヨンス)